

### 3 華南方面における中国による密輸取締問題

642 昭和9年7月21日 広田外務大臣より 在廈門塚本領事、在福州宇佐美總領事、在汕頭原田(忠一郎)領事他宛(電報)

立法院會議における海關緝私条例決議について  
昭和9年6月2日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国側税関による密輸取締りにつき査報方訓令

本省 7月21日発

#### 合第八〇六號

臺灣軍ヨリ十七日當地陸軍ヘノ情報ニ依レハ最近廈門税關監視船ハ公海ニ於テ密輸ナラサル我カ發動機船「ジヤンク」船等ヲ逮捕廈門ニ連行シテ船員ヲ拘留シ積荷ヲ沒收シ又福税關監視船ハ七月七日新竹州甲子寮沖ニテ澎湖島人「ジヤンク」ヲ強制臨檢セル等貴地方支那側税關監視船ハ盛ニ沒收シ且船長ヲ五百元以上二千元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

三、支那沿海十二浬内ニ於テ海關巡邏船ヨリ空砲信號ニ依リ停船ヲ命セラルモ之ニ應セサル船舶ハ射擊スルコトヲ得

支、北平、天津、青島、漢口、廣東、福州へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

委細郵報

支、北平、天津、青島、漢口、廣東、福州へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

合第八〇六號

臺灣軍ヨリ十七日當地陸軍ヘノ情報ニ依レハ最近廈門税關監視船ハ公海ニ於テ密輸ナラサル我カ發動機船「ジヤンク」船等ヲ逮捕廈門ニ連行シテ船員ヲ拘留シ積荷ヲ沒收シ又福税關監視船ハ七月七日新竹州甲子寮沖ニテ澎湖島人「ジヤンク」ヲ強制臨檢セル等貴地方支那側税關監視船ハ盛ニ公海ニ出動シ善意ノ日本船ニ對シテモ種々妨害ヲ與ヘ居ルヤノ情報アル處支那側密輸取締振監視方ニ付テハ曩ニ在支公使宛往電第一六八號末段申進ノ次第アルモ爲念右事實ノ有無竝ニ税關側密輸取締振ノ真相御突止ノ上御同電相成度尙最近支那側ニハ密輸入取締令ヲ公布シ沿岸十二海里迄密輸取締ヲ計畫シ居ル模様ニテ支那側取締振ハ更ニ嚴重監視ノ要アリト存セラル右爲念申添フ

本電宛先 厦門、福州、汕頭及廣東

支、南京、北平、天津、青島、芝罘、臺灣總督府へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

643 昭和9年7月30日 在廈門塚本領事より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 公海における廈門税關の密輸取締り状況について

廈門 7月30日後発

本省 7月30日後着

#### 第一三四號

貴電合第八〇六號ニ關シ(密輸取締臨檢ノ件)

稅關ニ於ケル密輸取締督勵ノ結果監視船二隻(何レモ六百噸位)ハ連日ノ如ク出動シ密輸船沒收ノ如キモ一週數隻ニ上ルコトアリ其ノ活動公海ニ及ヒ居ルコト事實ト認メラルモ之ヲ確證スルコトヲ得ス又澎湖島或ハ淡水附近ニ迄出没スルコトハ臺灣新聞ニ傳ヘラル外沒收船邦人乗組員モ之ヲ陳述シ居ルモ何レモ確證ヲ握ル迄ニ至ラス殊ニ密輸ニシテ事實疑ハシキ場合多々アリ當方ニ於テ之ヲ眞ニ受ケ

從事スル輩ハ公海ニ於テ捕ヘラレタリトカ陳述スルモ右ハ彼等ノ常套語時間ニシテ捕ヘラレタリトカ陳述スルモ右ハ彼等ノ常套語ニシテ事實疑ハシキ場合多々アリ當方ニ於テ之ヲ眞ニ受ケ

支、北平、南京、天津、青島、福州、廣東、汕頭、臺灣總督へ轉電セリ  
本件ニ關シテハ累次報告セル通當地稅關ヲシテ臺灣總督府發給ノ隆海丸國籍證書記載頓數ヲ認メシムル事ニ努メ來リ

(別紙)

第一 隆海丸釈放に関する税関との交渉について  
(接受日不明)  
昭和九年八月十五日 在汕頭領事 原田 忠一郎

機密第一四四號 昭和九年8月15日 在汕頭原田領事より  
広田外務大臣宛

支ヨリ上海へ、青島ヨリ芝罘へ轉報アリタシ  
支ヨリ上海へ、青島ヨリ芝罘へ轉報アリタシ

本官ハ右三ノ點ニ對シ日本側ニ於テ特ニ重キヲ置キ居ル旨ヲ述ヘ此ノ上共充分注意方申入レ置ケリ尙稅關長ハ本官ノ質問ニ對シ領海十二浬主義ヲ述ヘタルニ付日本側ニテハ此ノ主義ヲ認メス三浬主義ヲ堅持シ居ルヲ以テ稅關側ニテモ之ニ注意シ事件ヲ起ササル様要望シ置ケリ  
支、北平、南京、天津、青島、廈門、汕頭、廣東、臺灣總督へ轉電セリ

645 昭和9年8月15日 在汕頭原田領事より  
広田外務大臣宛

第一 隆海丸釈放に関する税関との交渉について  
(接受日不明)  
昭和九年八月十五日 在汕頭領事 原田 忠一郎

機密第一四四號

外務大臣 廣田 弘毅殿

第一 隆海丸釋放方交渉ノ件

ノ不正規貿易ト共ニカ正當貿易業者ヲ困ラシメ居ルコトヲ看過スヘカラス又密輸ヲ獎勵スルカ如キ態度ハ官憲トシテ執ルヘキニアラスト信シ本件ヲ如何ニ調整スルヤニ關シ起案中ナリ  
支、北平、南京、天津、青島、福州、廣東、汕頭、臺灣總督へ轉電セリ

青島ヨリ芝罘へ轉報アリタシ

644 昭和9年7月31日 在福州宇佐美總領事より  
広田外務大臣宛(電報)  
福州海關監視船による邦船強制臨檢狀況取調

ベについて

福州 7月31日後発  
本省 7月31日後着

貴電合第八〇六號ニ關シ

御來示ニ係ル福州海關監視船ノ邦船強制臨檢ニ付テハ當地ニ何等手懸ナキヲ以テ三十日稅關長ニ對シ事實ノ有無ヲ質シタル處同官ハ近時日本船ヲ臨檢搜查シタル報告ニ接セス

モスル事實ナキ趣ナリシヲ以テ廈門海關ノ監視船ナラハ別ノコト當海關監視船トシテハスル事實ナシト信ス尙爲念更ニ同市船長ニ確メ返事スヘシト答ヘタリ尙密輸取締ニ關スル稅關長ノ說明左ノ通

一、福州海關所屬監視船トシテハ從來ヨリ存シタル永嘉、福寧ノ兩船ハ小型(長サ約七十呎乃至五十呎)ニテ餘り役立タル爲本年五月ヨリ新タニ前記海和號(長サ百七十呎)配屬セラレ(廈門ニモ本年新ニ一隻増加シタル由)永嘉號ハ閩江方面ヲ、福寧號ハ興化方面ヲ主トシ海和號ハ各方面ヲ廻ラシ居レリ三隻共武装シアリ

二、密輸ノ狀況ハ最近幾分改善セラレタルヤノ感アリ福州海關管内ニテハ近時日本籍船舶ノ拿捕セラレタルモノ無シ從テ密輸船ハ主トシテ支那籍ノモノト認メラル(日本乘組ノモノハ有リ)  
三、監視船ハ素ヨリ公海ニモ出動ス然シ公海ニ於テハ支那船ノ臨檢ヲ行ヒ得ルモ外國船ニハ手出スヘカラサル旨訓令シアリ云々

タルカ先方ハ何回測度スルモ純頓數七十五頓ヲ出ストテ最終處置方ニ付總稅務司ニ照會セル趣ニテ此上頓數ノ點ニテ先方ヲ納得セシムル事ハ望ミ難ク着取セラレタルノミナラス此點ニノミ深入スルニ於テハ結局不言ノ間ニ本案ノ禁令ヲ默認シタル形トモナリ將來主義上ノ交渉ニ却テ面白カラサル影響ヲ及ホサストモ不限ヤニ察セラレタルヲ以テ往電第三〇號ノ通一九三一年一月ノ禁令(百頓未滿ノ船舶ノ外國貿易禁止及船荷證券ナキ魚類ノ輸入禁止)ハ原來我方ノ承認スル處ニ非ス從テ其邦船ニ對スル適用ニ對シテハ從來強ク反對シ來リタル次第ナルヲ説明シ隆海丸釋放方ヲ要求シ置キタリ就テハ本件ヲ契機トシテ根本問題タル前記禁令適用ノ緩和方ニ關スル我方主義上ノ主張ヲ十分先方ニ徹底セシメ我カ善意ノ貿易乃至ハ漁業ニ支障ヲ來タササラシムル樣根本的解決方可然御配慮相煩度別紙本件交渉ノ經過報告旁此段申進ス

本信寫送附先 公使 北平 天津 青島 上海 漢口 福州 廈門 廣東 香港 臺總 南京

## 第一隆海丸事件交渉經過

一、基隆在籍第一隆海丸(純噸數一〇二噸八六)ハ錫十俵價格壹千圓(流安五百俵價格五千五百圓(以上汕頭輸入九十四噸)及ヒガソリン空罐貳百五拾五個(香港仕向))ヲ積載シテ七月廿八日汕頭ニ入港シ鰯及流安ノ輸入手續ヲナシタル處當地稅關ハ全船ヲ百噸未満ト睨ミ検査ノ結果七十五噸ヲ越エサル事ヲ發見セル趣ニテ七月三十一日附ヲ以テ右ハ一九三一年一月十九日當稅關告示第五五六號ノ章程ニヨリ船貨共ニ沒收スヘキモノナル旨別添申號(舊)寫ノ通り申越ノ次第アリ

二、全船ノ噸數測定ニ關シ督府側ト當地稅關トノ間ニ多大ノ開キアルハ如何ナル事情ニヨルヤ解シ難キニ付事件報告ト共ニ一應督府ニ照會スル事トシ稅關ニ對シテハ其旨並

ニ全船ノ客室ヲモ含メ再應測量仕直シ方ヲ全日附書面ヲ以テ申送リ稅關長ノ來照ニ對シテハ直ニ應シ難キ旨ヲ明示シタリ

三、稅關長ハ本件ヲIGニ報告スルト共ニ當方ノ要求ニ從ヒ三人ヲ改メテ測度シタルカ到底百噸ニハ達セサルヲ以テ近クIGノ命ヲ俟チテ沒收スヘキ旨船長ニ申傳ヘタル由ニ

付本官ハ八月十一日稅關長ヲ訪問ノ上本筋ニ立チ返リテ談話ヲ試ミ原來我方ニ於テハ一九三一年一月ノ中國側禁令ハ承認シ居ラサル處ニシテ從テ該禁令ノ邦船ニ對スル適用ニ關シテハ從來強ク反對シ來リタル次第ヲ縷說シタル上更ニ假リニ噸數ノ點ヲ云々スルトシテモ督府發給ノ全船國籍證書ニハ總噸數一二七噸七九及ヒ純噸數一〇二噸八六トナリ居ルヲ以テ稅關側ノ測定方式ニ誤謬アル點ヲ指摘シ且ツ本年二月全船ハ福州ニ於テ最初今回同様ノ疑ヲ受ケタルモ結局督府側ノ測度通り百噸以上ナリト認定サレタル事實ヲ附言シ速カニ之カ釋放方ヲ要求シタルニ稅關長ハ總稅務司ノ指令ヲ仰キ處理シ度旨答ヘタリ依テ當方主張ノ要點ヲ明カラスル爲右ノ次第ヲ文書ニ認メ提示シ置キタリ(乙號(舊)寫)

四、越エテ十四日督府ヨリ全船船舶積量測度謄本ノ送附ニ接シタルヲ以テ一面前項三ノ主義上ノ主張ハ其レトシ置キ他面最終ノ試ミトシテ先方ノ測定方法上ノ相違是正方ヲ促ス意味合ニテ右謄本ヲ稅關長ノ參考ニ供シ更メテ今一度測量方ヲ要求シ置キタリ

五、稅關ノ依頼ニヨリ隆海丸測量ニ出張セル英人船長ウツト

646 昭和9年8月17日 在廈門塚本領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

### 密輸取締りに関する稅關長との懇談について

十六日夜宴會ノ席上稅關長ト懇談セル處稅關長ハ沿岸十二浬以上ノ海上ニ於テ密輸船ヲ拿捕スヘカラサルコト特ニ臺灣近海ニ出没スヘカラサルコトヲ船長ニ嚴命シ居ル旨並ニ最近日本船ヲ拿捕セルコト無ク全部支那船ノミナルヲ語リ且本件ニ付日本側ト爭論ヲ起スコトハ累々南京ニ及ホス惧アルニ付特ニ慎重ナル態度ヲ持スル様心懸ケ居ル旨ヲ述ヘ居タリ

### 第一四七號

往電第一三四號ニ關シ(密輸取締臨檢問題)

廈門 8月17日後発

本省 8月18日前着

氏(富港水先案内人)ハ百噸以上ノ船体トシテハ船長室モ船員室モ便所ノ設備モ無ク船長及ヒ船員ハ何處ニ起臥スルヤノ疑問ヲ起シ船長ハ操舵室ニ船員ハ舵尾ノ疊三疊敷ニ就寝ストノ答辯ニ對シ客室ヲ寢室ニ使用シ居レルニ相違ナシト反駁シ比較的公平ノ立場ニ在ル全氏ノ如キモ百噸以上ノ船舶トシテハ到底認メ難キ口吻ヲ漏ラシ居タル趣ナリ、尙全船船長ノ直話ニヨレハ全船ハ去ル昭和七年購入當時臺灣ニ於テモ百噸未満ト認メラレタルヲ以テ新ニ客室二個ヲ添設シ百噸以上トナシ之レヲ客室兼荷物置場ニ共用シ居ル次第ナルカ惟フニ噸數ノ差異ハ此客室ヲ算入スルト否トニヨリ生スルモノナラント

六、要之第一隆海丸ノ釋放方ニ付テハ此上共嚴重交渉ヲ繼續スル勿論ニテ其結果今回ハ假リニ何等カノ形式ニヨリ釋放セラルルコトアリトスルモ問題ハ本船ニ止マラス全程度ノ船舶ニ對シテハ今後モ屢々全様ノ問題ヲ惹起シ我方主義上ノ主張貫徹ニヨリ根本的解決ヲ計リ此種問題ノ反覆ヲ防遏シテ我善意ノ通商ヲ擁護スル必要アリト思考セラル

冒頭往電ノ通轉電セリ  
青島ヨリ芝罘へ轉報アリタシ

沿岸十二海里までの中国主権の伸長を規定する海關緝私条例は邦人を拘束するものではない旨抗議方訓令

通一機密第一〇一號

昭和九年八月二十二日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

支那海關緝私條例ニ關スル件

一、本件條例ニ關シテハ本年六月廿六日附在南京須磨總領事來信普第四二〇號ヲ以テ公布ノ旨報告アリタル處同條例ハ第九條以下ノ處罰規定ニ關シ之ヲ我國人ニ適用スルトセハ

(イ)密輸入ニ對シ沒收ト罰金トヲ併課セルコト(本條例第九條第廿一條等)

(ロ)條約上規定セル罰金ノ定額ヲ超過セルコト(第十二條第十四條第十五條等)

東、福州、廈門、汕頭

(別紙)

支那海關緝私條例中ノ條約違反條項ニ關スル調書

九、八、五

一、第九條非通商港入港ノ國際貿易船ニ船舶ノ沒收ノ外罰金ヲ課スルハ船舶載貨ノ沒收ヲ以テ最大限度トセル條約ノ規定ニ反ス(日支通商條約第五條第二項英支天津條約第四十七條其他)

一、第十條第十一條第十二條ハ十二海里以内ニ支那稅關ノ取締權限ヲ及ホサントスルモノニテ我方ノ容認スルヲ得サル所ナリ

一、第十二條第十四條稅關ノ許可ヲ得サル載貨ノ積換ヘ積卸シ積込ミニ對シ貨物ノ沒收ノ外船舶ノ沒收又ハ積荷ト同額又ハ二倍迄ノ罰金ヲ課スルハ條約上承認セル貨物ノ沒收並ニ最大限五百兩ノ罰金ノ範圍ヲ逸脱スルモノナリ(英支天津條約第卅八條同第卅九條同第四拾條望厦條約第十四條佛支天津條約第十九條第廿五條其他)

一、第十五條船舶關係書類提出ノ義務違反ニ關シテハ二百兩

(ハ)異議申立ニ關スル裁判手續ノ違反セルコト第卅條、第卅一條、第卅二條等)

等條約上我方カ承認セル範圍ヲ逸脱セル規定アリ

二、更ニ又同條例第十條第十一條並ニ第十二條ニ於テ沿岸十二海里迄支那側主権ノ伸張ヲ規定シ居ル處右ハ曩ニ昭和六年七月八日及同年八月七日附ヲ以テ在支重光代理公使ヨリ王外交部長宛公文ヲ以テ「帝國政府トシテハ國民政府ニ於テ海關密輸取締ノ限界ヲ十二海里ト決定シタリトスルモ日本國々民ニ關スル限り何等之ニ拘束ヲ受クヘキモノニ非ス」トノ見解ヲ有スル旨申入レ置キタル我方主張ニ反スル次第ナリ

三、依テ貴官ハ支那側ニ對シ本件緝私條例中十二海里ヲ以テ密輸取締ノ限界トナス旨ノ規定ニ關シテハ帝國臣民ハ何等拘束ヲ受ケサルコト並ニ處罰規定其他ニシテ條約上容認セラレタル所ニ抵觸スルモノハ帝國臣民ニ關スル限りヲ承認セサル旨一應書面ヲ以テ抗議シ置カレ度シ

四、尙本條例中條約上承認ノ範圍ヲ逸脱セル條項ニ關スル係官調書何等御参考迄別紙トシテ添付ス  
本信寫送付先 北平、南京、上海、青島、天津、芝罘、廣

一、第十九條、航空機、車輛等ニ假令船舶ノ規定ヲ準用スルトスルモ罰金ハ五百兩ニ限ラルヘキモノトス(英支天津第三十八條同第三十九條)

一、第廿一條密輸ニ對スル制裁ハ外國人ニ關スル限り貨物ノ沒收ヲ限度トシ且ツ密輸行爲ソノ者ヲ對象トス貨物ノ沒收以外罰金ヲ課スルコト並ニ密輸行爲以外密輸品ノ賣買等ヲモ對象トスルハ違反ナリ(英支天津第四十八條佛支通商條約第八條、佛支天津條約第二十八條其他)

一、第廿二條第廿五條等ハ虛偽ノ申告ヲ含ム一種ノ密輸行爲

ト見做スヘク虚偽ノ申告トセハ積荷目録ノ場合ニ準シ最  
大限五百<sup>兩</sup>ノ罰金密輸入トスレハ貨物ノ沒收ヲ以テ限度  
トスヘク之ニ罰金ヲ併課スルノ不當ナルハ第廿條及第十  
六條第十條ニ關聯シテ前述セル通りナリ

一、第廿三條外國人商店ノ帳簿ヲ検査スルノ不當ナルニ關シ

テハ曩ニ稅關ノ帳簿検査ハ治外法權ニ抵觸スルモノニシ

テ一定ノ手續ヲ經テ發セラル關係國法廷ヨリノ命令ア  
ルニ非レハ帳簿検査ハ之ヲ行フコトヲ得サル旨昭和八年

五月三日附上海領事團ヨリ稅關長ヘ通告シタル通りニテ

明ニ條約違反ナリ

一、第廿七條第二項外國人タル荷主ニ處罰ト沒收ヲ併課スル  
ハ條約違反ナルコト前述ノ通りナリ

一、第廿八條第一項船舶貿易航行ノ自由ハ條約上ノ根據無ク  
シテ制限スルヲ得ス而シテ條約上密輸ニ關係セル船舶ノ

貿易禁止ハ容認セラレタル所ナルモ船舶關係書類提出ノ

義務違反等ニ關シテハ科料ヲ徵收スルニ止マリ之ニ對シ

テ迄貿易ヲ禁止スルヲ得ス、(英支天津第四十八條其他)

一、第廿九條加重規定ハ條約上明定無シ

一、第卅一條第卅二條第卅三條等ノ異議ノ申立ニ關スル裁判  
一、第卅一條第卅二條第卅三條等ノ異議ノ申立ニ關スル裁判

輸取締ノ件)

貴官ニ於テ外交部當局ニ對シ廈門發本使宛電報第一〇號ノ  
事例ヲ指摘シ(爲念「メモ」ヲ作成シ手交セラレ度シ)右ニ依  
レハ稅關監視船ハ公海ハ愚カ日本領海ニ於テ迄日本船ノ臨  
檢ヲ爲シ居ル處斯ノ如キハ絕對ニ我方ノ默許シ難キ所ナル  
旨ヲ說示シ冒頭電末段ノ警告ヲ與ヘラレ度シ

大臣、天津、青島、芝罘、廣東、福州、廈門、汕<sup>頭</sup>、臺灣  
總督ヘ轉電セリ

### (付記)

警高甲第一四三六三號

昭和九年八月十八日

臺灣總督府警務局長 石垣 倉治

外務省東亞局長殿

中國稅關監視船ノ本島近海出沒ニ關スル件

最近中國稅關監視船カ對岸ヘノ密輸船取締ヲ名トシテ本島  
近海ニ出沒シ不法ニ我カ漁船又ハ小型貿易船ニ臨檢シ時ニ  
ハ拿捕ヲ敢テスルヤノ聞込アリ注意中ノ處去ル六月三十日

澎湖廳馬公ヲ出帆、臺北州下淡水ニ向ヒタル澎湖廳置籍本  
件

648 昭和9年9月3日 在中国有吉公使より

広田外務大臣宛(電報)

中國稅關監視船による公海ならびに日本領海  
における邦船臨檢に關し外交部當局に警告方

須磨總領事に指示について

付記 八月十八日付石垣(倉治)台灣總督府警務局長

より桑島東亞局長宛公信警高甲第一四三六三

号

密輸取締を名目とする中國稅關監視船の台灣

近海出沒状況について

上海 9月3日後発

本省 9月3日後着

第七二三號

本使發南京宛電報

第二七〇號

大臣發本使宛電報第二二一九號ニ關シ(支那稅關監視船ノ密

於テ廈門稅關監視船德星號ト認メラルモノニ不法臨檢ヲ  
受ケタル者ノ届出アリ澎湖廳ニ於テ七月十七日該戒克船ノ  
歸港ヲ待チ調查シタル當時ノ狀況左記ノ如ク

對岸通ヒニアラサル本島沿岸貿易船カ臨檢ヲ受ケタル點ヨ  
リ觀レハ中國稅關監視船ノ本島近海出沒ハ事實ト認メラル  
爲御參考

ル爲御參考

右通報ス

### 記

一、臨檢セラレタル船舶

(一) 1、船名 金永順號

2、船主 澎湖廳湖西庄青螺九八七番地 李銓

3、船長 右同

4、乘組員 李送外九名

5、船籍港 白沙庄港尾

6、船種 支那型帆船 三二、五六屯

7、積荷 落花生油 五七、〇〇〇斤

建築用砂 四、〇〇〇斤

千 磅 五〇〇斤

(二) 1、船名 金勝順號  
 2、船主 澎湖廳白沙庄港尾 楊成  
 3、船長 右同  
 4、乗組員 十名  
 5、船籍 白沙庄港尾港  
 6、船種 支那型帆船 一四、八屯  
 7、積荷 落花生油 五五、〇〇〇斤  
 空瓶 六〇〇斤  
 建築用沙 五、〇〇〇斤  
 三、右二隻ハ澎湖販賣信用組合ヨリ總督府專賣局ニ納入スヘキ落花生油外數點ヲ積荷シ本年六月三十日午后十時馬公ヲ出帆淡水港ニ向ヒ(金勝順ハ途中廳下大赤嵌港ニ寄港シタルタメ數日後レタリト云フ)タルカ七月二日正午頃新竹ト桃園トノ中間ト思ハルル沖合約三十海里ノ海上ヲ航行中遙カニ西方海上ヨリ軍艦様ノ船一隻現レ金永順ノ方向へ一直線ニ進行シ來リ最初ハ日本ノ軍艦ナラント思料シ居タルニ接近スルニ隨ヒ船尾ニ中國國旗ヲ掲ケ居ルヲ發見シタルヲ以テ金永順ニ於テモ日ノ丸國旗ヲ掲揚シテ進行シタルカ彼ハ砲門ヲ金永順ニ向ケ直シ益々接近シ

第七三七號  
 貴電第二二九號及本使發南京宛電報第二七〇號ニ關シ  
 五日堀内「ローフォード」ト會談ノ節廈門發本使宛電報第一〇號ノ事例ヲ英譯セル「メモ」ヲ手交シ貴電ノ趣旨ニ依リ警告セル處「ロ」ハ右ハ初耳ニテ不都合ナルニ付直ニ廈門稅關ニ對シ今後充分注意スヘキ(旨)嚴訓スヘシト答ヘタリ尙其ノ節「ロ」ハ監視船ハ密輸取調ノ爲領海外ニテ支那船ヲ停船臨檢スルコトアル旨報告ニ接シ居ル處或ハ國旗ヲ掲ケサル日本船ヲ支那船ト間違フ場合モアルヘシト述ヘタルニ付堀内ヨリ我方報告ニハ明カニ日本國旗ヲ掲ケ居ルモノサヘモ停船臨檢シタル例アルノミナラス我方トシテハ國旗ヲ掲ケサル日本船ト雖領海外ニテ停船スルハ認容シ難キ處ナレハ右ノ點ハ充分注意セラレタシト述ヘ置キタル趣ナリ  
 北平、天津、青島、芝罘、廣東、福州、廈門、汕頭、臺灣  
 總督へ轉電シ上海へ轉報セリ

來り距離一、二丁ニ至ルヤ艦艇ヲ下シ英人二名中國人十數名乗組快速ヲ以テ金永順ニ乗り付ケ英人二名中國人三名ハ何レモ銃器ヲ携ヘ應セサレハ殺スヘシト威喝シ其ノ中ノ英人力船鑑札ノ提出ヲ命シ且ツ出港地到着港積荷等ヲ尋問(總テ筆談)シタル後立チ去リタルカ彼等ノ帽子ノマークニハ德星巡洋艦ト記シアリ中國稅關監視船ナリト思料セラレタリト云フ別ニ被害ハナカリシモ船長初メ乗組員ハ頗ル恐怖シタルモノノ如ク七月三日淡水ニ入港シタルカ金勝順モ七月七日同様臨檢セラレタル由ナルカ金永順ハ爾後ノ航海ノ都合上歸港ヲ急キタルタメ右ノ届出ヲナサス積荷陸揚ト同時ニ歸港シタルモ金勝順ハ今尙淡水ニアリ事情ヲ淡水ノ官憲ニ届出テタルモノト思料ス三、右ハ永順號船長澎湖鹽湖<sup>(露)</sup>西庄青螺九八七番地李銓ニ付調查シタルモノナリ

649 昭和9年9月5日 在中國有吉公使より  
 広田外務大臣宛(電報)  
 中國領海外での邦船臨檢に対しローフォード  
 総稅務司代理に抗議について

650 昭和9年9月19日 在廈門塚本領事より  
 広田外務大臣宛(電報)  
 中国税關監視船による公海上の邦船臨檢は國旗不掲揚による旨税關長陳述について

第一六五號  
 往電第一五〇號ニ關シ(支那監視船ノ密輸船臨檢ノ件)  
 稅關長ヨリノ回答ニ依レハ何レモ公海上ニ於テ爲サレタルコトニシテ其ノ理由ハ日本船ナリヤ支那船ナリヤ識別シ難カリシニ依ルモノニシテ臨檢セスシテハ其ノ識別方法無キ旨若シ臺灣總督府ニ於テ其ノ船壁ニ日本國旗ヲ掲ケシメラルルニ於テハスルコト發生セルニ付其ノ旨提案シ戴ケハ幸ナル旨ヲ述ヘ臺灣船舶臨檢ニ付遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ各船長ニ對シ支那領海以外ニ於テ外國船舶ヲ停船セサル様命令セル旨通報シ來レリ

(欄外記入)  
 往復文書郵送スヘキモ稅關長回答中ニ公海ニ於テ支那船ヲ臨檢スルハ當然ノ權利ニシテ其ノ爲ニハ無國旗船舶ヲ臨檢スルコトノ已ムヲ得サル趣旨ヲ記シアルニ付此ノ點及其

ノ他ニ關シ政府ノ訓令ヲ俟チ更ニ申進ムヘキコトヲ留保シタル上總督府通牒ニ指摘セル日本領海内ニ於ケル日本船舶ノ臨檢ハ更ニ調査ノ上申出ツヘキモ公海ニ於ケル臨檢ト雖船舶識別困難ナルヲ理由トシテ外國船舶ノ作業ヲ妨害スルコトニ關シテハ承服シ得ス尙從來日本船舶ニシテ拿捕セラレタルモノノ中公海上ニ於テ爲サレタルモノアル趣情報ニ接シ居ル處總督府ニ於テハ此ノ機會ニ於テ右不法ニ拿捕沒收セラレタル船舶ノ返還方ヲ要求シ居レリ而シテ帝國政府ニ於テハ中國側ニ於テ勝手ニ定メタル十二浬領海說及百噸未滿船舶ノ貿易從事禁止ノ如キハ何等我方ヲ拘束スルモノニ非サルコトニ付稅關長ノ注意ヲ喚起スヘキ旨申入レ置キ度シ差支無キヤ御回訓ヲ仰ク

公使、南京、福州、臺灣總督府總務長官へ轉電セリ

(欄外記入)

南京中央部ニ突込ミテハ如何

中国税關監視船による公海上の邦船臨檢理由  
に対し反駁方訓令

本省 9月21日発

#### 第六四號

貴電第一六五號ニ關シ

一、當方ニ於テハ御來示ノ申入振ニ同意ナルニ付貴電末段「總督府通牒ニ指摘セル」以下ノ趣旨ニテ申入レラレ度モ百噸未滿船舶ノ貿易從事禁止ニ關シテハ單ニ條約違反ナル旨言及セラルルニ止メ置カレ度シ

二、尚政府ノ訓令ヲ俟チ更ニ申進ムヘキ旨留保スルコトハ却テ前一ノ申入ノ權威ヲ殺クヤノ感アルニ付右留保ハ附セサル方可ナリ尤モ往復文書ヲ當方ニ於テ詳細研究ノ上ハ更ニ申入レヲ要スルヤモ知レストノ御見込ナルニ於テハ前記一ノ申入ノ末尾ニ單ニ「更ニ申進ムルコトアルヘシ」トノ趣旨ヲ附言シ置カレ度シ

公使、南京、福州、臺灣總督府總務長官へ轉電セリ

651 昭和9年9月21日 広田外務大臣より  
在廈門塚本領事宛(電報)

对中国税關監視船による公海上の邦船臨檢理由  
に対し反駁方訓令

本省 9月21日発

貴電第一六五號ニ關シ

一、當方ニ於テハ御來示ノ申入振ニ同意ナルニ付貴電末段「總督府通牒ニ指摘セル」以下ノ趣旨ニテ申入レラレ度モ百噸未滿船舶ノ貿易從事禁止ニ關シテハ單ニ條約違反ナル旨言及セラルルニ止メ置カレ度シ

二、尚政府ノ訓令ヲ俟チ更ニ申進ムヘキ旨留保スルコトハ却テ前一ノ申入ノ末尾ニ單ニ「更ニ申進ムルコトアルヘシ」トノ趣旨ヲ附言シ置カレ度シ

公使、南京、福州、臺灣總督府總務長官へ轉電セリ

652 昭和9年9月23日 在汕頭原田領事より  
広田外務大臣宛(電報)

653 昭和9年9月25日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

第一隆海丸の至急釈放方口ーフオードに申入

れについて

閣下發在支公使宛電報第一三一號ニ關シ(隆海丸事件)  
支那稅關ハ晝間一名夜間二名ノ武裝兵ヲ隆海丸ニ派遣シ監視中ノ處船員ニ精神異狀(者)ヲ生シ二十一日夕刻監視中ノ支那兵ニ對シ危害ヲ加ヘントシ船内ノ一室ニ閉込メテ漸ク取靜メタルカ右ハ發作的ニテ頗ル危險ナルニ付目下警官ヲ乗船セシメ保護ヲ加ヘツツアリ尙右ノ外先般來脚氣患者モ續出シ居リ此ノ儘支那側ノ抑留ニ任せ置ク時ハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ計ラレス至急解決ヲ要スル状勢ニ在リ

第三八號

第七七五號

貴電第二三一號及汕頭發閣下宛電報第三八號ニ關シ  
一、去ル五日堀内ラシテ往電第七三八號ノ件ニテ「ローフオード」ト會談ノ節汕頭發閣下宛電報第三四號等ノ事情及冒頭貴電ノ趣旨ヲ説明シテ隆海丸至急解放方申入レシメタル處「ロ」ハ至急取調ノ上何分ノ處置ヲ執ルヘシト述ヘタルカ(「ロ」ハ我方ノ頃數ヲ認ムルコト困難ナルヤノ口吻ヲ洩シ居タルニ付貴電ノ趣旨ヲ繰返シ又福州ニ於テ已ニ認メラレ居ルコトナレハトテ至急解放方念ラ押シ置キタリ)廿一日附書翰ヲ以テ稅關ノ測量ニ依レハ一〇〇噸未滿ナレハ自分限リニテ取計ヒ難ク政府ニ請訓中ナル旨回答シ來レリ

總督ヨリ馬公要港部へ轉報アリ度シ

二、依テ二十四日堀内ラシテ沈關務署長ニ對シ本件「ロ」ト

ノ交渉ノ經緯及冒頭汕頭電報ノ次第ヲ説明シテ至急解放

方申入レシメタル處沈ハ福州稅關カ本船ヲ釋放シタルハ

當時自分ニ於テ稅關側ノ主張ハ維持スヘキコト勿論ナル

モ問題ヲ起スヲ避ケルコト適當ナリトノ趣旨ヲ以テ内々

釋放方稅關長ニ内訓セシメタルカ爲ニテ從テ當時船舶ハ

少クトモ口頭ニテ將來支那港ニ入ルヘカラサル様警告ヲ

與ヘラレ居ル筈ナリト述ヘタルニ付堀内ヨリ本件ニ付テ

ハ我方トシテ一〇〇噸未満船舶ノ貿易禁止ヲ認メ難ク條

約上ノ權利ヲ主張セサルヲ得ス

又福州ニ於テ釋放ノ内情ハ沈ノ言ノ如シトスルモ該船ハ

當時無條件ニテ釋放サレ居リ從テ今後モ支那港ニ入港シ

得ルモノト信シテ汕頭ニ入港セル次第ナルノミナラス二

箇月間モ不法ニ拘束スルハ不都合ニテ之カ爲該船ハ前記

ノ如キ狀態ニ入ル次第ナレハ本件ニ關スル我方條約上ノ

主張乃至稅關側ノ立場ヲ如何ニ調和スルヤニ付テハ今後

話合ヲ續クルニ異存ナキモ不幸ナル事態ノ發生ヲ避クル

爲至急本船ノ釋放方手配アリタシト述ヘ沈ハ右能ク考慮

シ見ルヘシト答ヘタリ

南京、北平、福州、汕頭、臺灣總督へ轉電セリ

654 昭和9年9月25日 在汕頭原田領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

稅關長ヨリ二十五日附公文ヲ以テ隆海丸ハ罰金百弗積

荷ハ輸入稅及附加稅ノ支拂ニ依リ釋放セラルヘキモノナリ

トノ訓令ヲ受ケタル旨竝ニ「船長ハ同船カ今後再ヒ支那港

ニ入港セサルコトヲ誓ヒ本官ノ面前ニ於テ署名シタル一札

ヲ提出スル必要アル」旨ヲ通知越セリ

右ハ當方ノ主張ヲ認メタルモノニ非シテ便宜的處置ト思

考セラルル處右ニ對スル回答振至急御回訓相成様致度シ

支、臺灣總務長官へ轉電セリ

往電第三八號ニ關シ(隆海丸事件)  
本省 9月25日後發

第四〇號

655 昭和9年10月3日 平塚(広義)台灣總督府總務長官より  
廣田外務大臣宛(電報)

国旗不掲揚を理由とした中國稅關監視船によ  
る公海上の邦船臨檢は不法との台灣總督府見

解について

台北 10月3日後發  
本省 10月3日後着

第二三號

貴電第二一號ニ關シ(支那監視船ノ臨檢一件)

本官發支死電報

第二號

外務大臣發電報合第一〇四五號支那側要求ノ船籍識別ノ件

ニ關シ當府ノ意見左ノ通

一、船舶及船名ノ標記ハ船舶法及關係法令ニ依リ規定シアル

ヲ以テ國籍ヲ識別シ得サルハ詮ナシ

三、國旗掲揚ニ付テモ前記法規ニ依リ夫々規定シアル處公海

ニ於テハ常ニ掲揚スヘキコトヲ要求シ居ラス公海ニ於テ

國旗ヲ掲揚スルト否トハ自由ナルヲ通則トスル際支那側

ノ不法行爲ヲ避ケンカ爲他國ノ要求ニ依リテ制限ヲ加フ

(欄外記入)

本件ハ主義ノ問題トシテ嚴正ナル態度ニ出ツルコト

税關側より第一隆海丸釈放条件につき船長單独  
署名の不再入港誓約書の提出を申越しについて

在汕頭原田領事より  
廣田外務大臣宛(電報)

昭和9年10月7日

本省 10月7日後發

第四五號

往電第二五號ニ關シ(密輸取締臨檢ノ件)

六日朝税關長代理ニ對シ御訓電ノ趣旨ニ依リ至急釋放方ヲ

要求シタルニ午後ニ至リ先方ヨリ

(イ)罰金ニ關シテハ變りナキモ

(ロ)誓約書ニ關シテハ船長ハ同船カ今後再支那港ニ入港セサ

ルコト及若シ再入港スルニ於テハ同船ハ沒收處分ニ附セ

ラルヘキヲ誓ヒタル一札ヲ船長單獨ニテ署名シ提出スル

必要アリ

ニ變更セラル旨ノ訓令ニ接シタル趣申越セリ

右ハ「本官ノ面前ニ於ケル署名」ヲ「船長單獨ノ署名」ト改メ新ニ「若シ再入港スルニ於テハ同船ハ沒收處分ニ附セラルヘキコト」ノ一句ヲ附加シ居リ何等改善ノ跡ヲ認メラレサル次第ナリ就テハ本官ハ貴電御來示ノ趣旨ニテ引續キ「ブツシユ」スルコト致スヘシ

尙積荷ニ付今回何等言及シ居ラサルハ往電第四二號末段ノ

通り處理セル結果ト存ス

支、臺灣總督ヘ轉電セリ

總督ヘ轉電セリ

上海へ轉報アリタシ

(欄外記入)

公海ニ於ケル臨檢ニ對シテハ特ニ嚴重ナル態度ヲ執ルヘシト

トシテハ中央ノ方針ニ依リ本件禁止ノ勵行ヲ命セラレ居リ

今回ノ問題モ自分限リノ取計トシテ釋放セントスルモノニテ之カ公ノ問題トモナラハ頗ル面倒ニナルヘキノミナラス自分ハ右取計ノ責任ヲ負フ立場ニ在レハ名目上ノ罰金ト船長ニ對スル警告丈ハ之ヲ實行セサルヘカラス從テ日本側ノ立場ヲモ考ヘ船長ノ<sup>(誓約)</sup>書ノ代リニ稅關長ヨリ船長宛警告ノ手紙ヲ出シ船長ニ於テ之ヲ「アクノレツジ」スルコトシリハ如何ト述ヘタルニ付堀内ヨリ船長カ右手紙ヲ「アクノレツジ」スルコトハ困難ト思ハルト述ヘタルニ沈ハ「アクノレツジ」ナケレハ後日ノ證據トナラス又之ニ依リ警告ヲ承認スルコトモナラサレハ枉ケテ承認サレ度シト繰リ返シタルニ付堀内ヨリ右ハ困難ナランモ臺灣側ニ取次クヘシト答ヘ置ケル趣ナリ

本件ニ付テハ關務當局トノ話合ニ依リ之レ以上ノ解決ハ困難ニシテ外交部其ノ他中央當局ト交渉スルコトモ更ニ迅速有利ナル結果ヲ得ルコト困難ナリト存セラルルニ付差當リ右ノ程度ニテ釋放方ヲ默認スルコトヨリ外ナシト存セラル

態切迫シ居レハトテ閣下發油頭宛電報第二五號ノ趣旨ニ依件雜六

第八二七號

汕頭發閣下宛電報第四五號ニ關シ(隆海丸釋放ノ件)

堀内ヲシテ十一日來滬ノ沈關務署長ニ對シ稅關長申入レノ

新條件ハ我方ニ於テ到底承認シ難キコトヲ説明シ此ノ上條件緩和等ニ時日ヲ費スニ於テハ不幸事出來ノ危險アル程事

態切迫シ居レハトテ閣下發油頭宛電報第二五號ノ趣旨ニ依

657 昭和9年10月9日 在南京須磨總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

中國外交部による台灣籍邦船の國旗掲揚方要請について

南京 10月9日後発

本省 10月10日前着

第九九四號  
本官發支宛電報

第九八〇號

往電第八七六號ニ關シ(支那稅關ノ邦船臨檢問題)

外交部ヨリ十月八日附覺書ヲ以テ臨檢セル船舶ハ金榮順號カ臨檢後始メテ日本國旗ヲ掲揚シタルニ止マリ他ハ全然日本國旗ヲ掲揚セス又船名船籍港ノ記載モナカリシニ付支那船ト思込ミ臨檢シタル次第ナリ又臨檢ハ禮ヲ厚クシテ穩便ニ之ヲ行ヒ船員ヲ殴打シタルカ如キコトハ絶対ニナシ今後ハ臺灣籍日本船舶ニハ萬國船通例ニ基キ國旗ヲ掲揚スルト共ニ舷上ニ船名並ニ船籍港ヲ明記セシムル様取計ハレタシ云々ト申越セリ原文郵送ス

大臣、天津、青島、廣東、福州、汕頭、廈門、芝罘、臺灣

659 昭和9年10月18日 在汕頭原田領事より  
広田外務大臣宛(電報)

船長宛税関長警告書簡承認により第一陸海丸  
积放について

汕頭 10月18日後発  
本省 10月18日後着  
往電第四七號ニ關シ  
船長ハ十六日船主ヨリ同意ノ旨返電ニ接シタル由ニテ十七  
日稅關長代理ノ十三日附(脫?)ヲ「アクノレツジ」シタル處何  
時出港スルモ自由ナリト申渡サレタル趣ナリ

右手續ハ陸海丸ト稅關トノ直接折衝ニ依リ之ヲ爲サシメ本  
官トシテハ何等關知セサル建前ト成リ居レリ  
尙同船ハ香港仕向「ガソリン」空罐ヲ積載シ居ル關係上十八  
日同地ニ向ケ出港セルカ途中支那沿岸航行ニハ國旗ヲ用意  
シ充分ニ注意スル様申聞ケ置キタリ  
臺灣總督府總務長官ヘ轉電シ冒頭往電ト共ニ北平、南京、  
福州、廈門、廣東、香港ヘ轉電アリ度  
冒頭往電ト共ニ臺灣總督府總務長官ヨリ馬公ヘ轉電セリ  
シ

#### 4 福建新政府をめぐる諸問題

第一部第二卷第523文書の誤りと思われる。

660 昭和9年1月2日 広田外務大臣より  
在南京日高總領事宛(電報)

廈門および福州空爆に際する国民政府の各國  
在留民避難勧告につき本邦人の避難は不可能  
である実情を同政府に徹底方訓令

本省 1月2日後2時5分発

第一號

客年貴官發支宛電報第七四七號ニ關シ  
差當リノ措置トシテ客年廈門發貴官宛電報第一號ノ趣旨ヲ

支那側ニ充分撤底シ置カレ度又福州ニ關シテモ右ト全趣旨  
ヲ以テ先方ノ注意ヲ喚起シ置カレ度(客年福州發本大臣宛  
電報第四六五號ノ次第ハアルモ全地ニ於テモ萬一二モ帝國  
臣民殊ニ其ノ財產ニ對シ被害發生スルナキヲ保セザレバナ  
リ)

支、北平、福州、廈門へ轉電セリ

編注 第七四七号は第七四六号(『日本外交文書』昭和期II)

661 昭和9年1月4日 在南京日高總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

廈門および福州在留邦人が避難しないことへ  
の国民政府側不満表明に対し避難不可能な実  
情を説明の上慎重行動方申入れについて

南京 1月4日後発

第一號

貴電第一號ニ關シ

當館員ヲシテ徐謨ヲ往訪セシメ廈門發本官宛電報第一號ノ  
趣旨及福州(脱?)ニ關シテモ支那側ノ注意ヲ喚起セシメタ  
ル處徐ハ支那側トシテハ先日外交部長ヨリ各國領事宛文書  
ヲ發送シ警告濟ノ積リニテ  
同地方ニ在住スル日本人カ何故安全地帶ニ避難セサルカ了  
解ニ苦ム旨述ヘタルニ依リ英米等ト異ナリ福州、廈門ニハ  
多數ノ邦人カ住(居)シ巨額ノ財產存在シ居ル點ヲ指摘シ避  
難ハ事實上不可能ナル旨ヲ繰返シ力説シ慎重ニ行動方申入